

1. 教員および授業の概要

①教員名： 井上 厚史 (INOUE Atsushi)

②担当科目

- ・博士前期課程：北東アジア専門講義4（北東アジア比較思想）、北東アジア研究指導Ⅰ～Ⅳ
- ・博士後期課程：北東アジア超域研究指導Ⅰ・Ⅱ、特別研究活動

③教員のプロフィール

- ・大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学
- ・1990-1993年 韓国蔚山大学校人文大学日語日文学科専任講師
- ・文学修士
- ・日本思想史、韓国思想史、日韓関係史専攻

④所属学会

日本思想史学会、政治思想学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

- ・東アジアの近代化と儒教
- ・朝鮮儒学

⑥授業の概要

前近代の東アジア三国（中国、韓国、日本）は、「西洋の衝撃」を受けつつ近代化を遂行していったが、その近代化過程において、西洋思想の理解に注目するのか、伝統思想の変容に注目するのかでは、近代化の評価に大きな相違を生む。従来の研究では、前者のみが強調され、儒教等の伝統思想は「破棄すべき封建思想」として認識されてきたが、19世紀後半から20世紀初頭に作成された当時のテキストの丹念な読解を通して、東アジア三国の近代化の多様なあり方、そして儒教の果たした機能や変容過程を明らかにしたいと思っている。受講にあたっては、テキストの丹念な読解作業に従事できる学生を希望する。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）

- ・日本近世における思想家の研究
- ・韓国朝鮮王朝期の思想家の研究
- ・東アジアの近代化と儒教の関係に関する研究

2. 研究業績リスト

①著書

- (1) 河宇鳳『朝鮮実学者の見た近世日本』ペリカン社、2001年8月の翻訳、および解説「日韓関係における蔑視観の変容」379～422頁。
- (2) 『同志社大学国文学専攻創立五十周年国文学会設立四十周年記念論文集』同志社国文学会、2004年11月、「『南総里見八犬伝』と『日本外史』の歴史認識」503～514頁。
- (3) 『歴史の中の「在日」』藤原書店、2005年3月、「十八世紀日本人の朝鮮観」199～220頁。
- (4) 島根県立大学西周研究会『西周と日本の近代』ペリカン社、2005年5月、「西周と儒教思想—「理」の解釈をめぐって」146～182頁。

②論文

- (1) 「近代日本社会における在日朝鮮人の自己認識」、『総合政策論叢』第2号、島根県立大学、2001年12月、161～209頁。
- (2) 「忘れられた日韓交流史—韓国・対馬・石見をめぐる「鉄」の文化—」、『日本研究』第1輯、韓国・蔚山大学校日本研究所、2002年6月、97～117頁。
- (3) 「『国姓爺合戦』から『漢国無体 此奴和日本』へ—江戸時代における華夷観の変容—」、『同志社国文学』第58号、同志社国文学会、59～71頁。
- (4) 「一視同仁というはてしなき旅路—雑誌『朝鮮』に見る近代日韓関係の精神的考察—」『比較日本文化研究』第7号、風響社、2003年5月、36～62頁。
- (5) 「二つの国家観—国家に対する「忠誠心」をめぐる考察—」、『北東アジア研究』第6号、島根県立大学北東アジア地域研究センター、2004年1月、153～177頁。
- (6) 「新井白石の朝鮮観」、学芸総合誌・季刊『環』vol. 23、藤原書店、2005年10月、114～125頁。
- (7) 「韓国近代儒教改革運動における近代的思惟の形成—西洋・中国・日本の果たした役割—」、『北東アジア研究』第10号、*Siberia and Japan in North-Eastern Asia*, Abstracts of Russian-Japanese Conference 8-9th September 2002, Irkutsk, Irkutsk, 2003, pp. 114-123.)
- (8) 「中江兆民と儒教思想—「自由権」の解釈をめぐって—」、『北東アジア研究』第14・15合併号、島根県立大学北東アジア地域研究センター、2008年3月、117～140頁。
- (9) 「近世思想史における朝鮮と日本—山崎闇斎再考—」、『大航海』No. 67、新書館、2008年6月、50～57頁。
- (10) 「李退溪の「誠」と王陽明の「誠」—二人の思想の異同をめぐって—」、島根県立大学北東アジア地域研究センター、『北東アジア研究』第21号、2011年3月、1-21頁